



リンクシス・ジャパン

EtherFast Cable/DSL Router (BEFSR41)

ケーブルテレビのIP1個で複数のマシンからインターネットを使える!

価格：オープンブライズ(実売価格：3万4800円)



POINT

リンクシス・ジャパンの「EtherFast Cable/DSL Router」は、一つのIPアドレスで複数のPCから同時にインターネットアクセスを可能にするルーター。ケーブルテレビとDSLに対応している。ただし、いわゆるダイヤルアップルーターとは違い、ケーブルモデムやADSLモデムが必要なので注意が必要だ。拡張NAT機能、DHCPサーバー/クライアント機能、アップリンクポート装備、ファイアウォール機能、RIP対応など充実した機能を持つ。

価格
オープンブライズ

問い合わせ先
リンクシス・ジャパン
☎03-5259-5137 URL <http://www.linksys.co.jp/>

規格
準拠規格 IEEE802.3、IEEE802.3u
プロトコル TCP/IP、RIP1、RIP2
アクセス方式 CSMA/CD(搬送波感知多重アクセス衝突検出)
通信方式 全二重/半二重
通信速度 WAN：10Mbps(10Base-T)
LAN：10Mbps(10Base-T)または100Mbps(100Base-TX)
適合ケーブル 10Base-T：UTP/STP カテゴリー3または5
100Base-TX：UTP/STP カテゴリー5 または5以上
ポート 10Base-T/100Base-TX RJ45ポート×4^{**1}
10Base-T フロードバンド(WAN)ポート×1
10Base-T/100Base-TX RJ45 アップリンクポート×1
安全規格 CE、FCC Class B、UL、CSA

サイズ/重量、電源
外形寸法 185(W)×155(D)×48(H)mm
本体重量 480g 電源 5V DC3A 100-240V AC

サポートほか
保証 1年間/バックセンドサポート

付属品
マニュアル、ACアダプタ、電源ケーブル
※1 アップリンク使用時は最大3ポート使用可能

コストパフォーマンス

機能性/操作感

総合評価

複数マシンでインターネット接続

最近、安い価格で常時接続が実現できるケーブルテレビのインターネット接続サービスに人気がある。なかにはテレビのチャンネルサービスよりインターネットサービスが目的で加入するユーザーも増えていると聞いている。かくいう筆者もその一人だが……。

ケーブルテレビの接続サービスでは、ケーブルテレビのDHCPサーバーから1個のIPアドレスを割り当ててもらい、そのIPアドレスを使ってインターネット接続をすることが多い。この場合、ケーブルテレビとユーザーの間はケーブルを使って接続され、その間に「ケーブルモデム」という機器を接続する。さらに、割り当てられるIPアドレスは1個のため、接続できるマシンは1台に限られてしまう。固定IPアドレスをもらっている場合でも接続形態は同じだ。

そこで、ケーブルモデムとPCの間にEtherFast Cable/DSL Router(以下BEFSR41)を入れると、DHCPサーバー機能を備えたルーターとして機能し、ケーブルテレビから割り当てられたIPアドレスをプライベートIPアドレスに変換し、ルーターのNAT機能を利用してLANに接続されている複数のマシンからインターネットアクセスできるようにする。BEFSR41には10/100Baseのスイッチングハブ機能

を備えたポートが4個あるので、4台のマシンでLANが組めるが、さらにアップリンクポートが1個あるので、ここにハブを接続してさらに接続マシンを増やすことが可能だ。プライベートIPアドレスは、最大で253個まで自動割り当てが可能になっている。ただし複数のPCでの同時アクセスが許可されているかどうかは、契約先のプロバイダに問い合わせしてほしい。

設定は簡単

BEFSR41を利用するために必要なのは、ケーブルテレビから割り当てられるIPアドレスを自動取得するか手動で取得するかという設定と、DHCPサーバーとして利用するかしないかという設定。ほかにパスワード設定をするだけで、基本的には利用可能になる。

このほかケーブルテレビ局によっては、マシンのMACアドレスをケーブルテレビ側のホストマシンに登録しないとサービスを受けられないところもあるので、その場合はケーブルテレビのホストにBEFSR41のMACアドレスを設定する。ただし、多くのケーブルテレビでは、MACアドレスの設定画面にPPP接続では入れないのが普通だ。ケーブルモデムを経由して入る必要がある。この場合、ほかのWebサーバーには接続できないは入れるというシステムになっている。

ADSLでも利用可能

BEFSR41のもう一つの特徴は、DSLでも利用できることだ。DSLとは「Digital Subscriber Line」の略で、簡単にいえば、有線やNTTの電話回線(ただしISDNは使えない)を使ってケーブルテレビなどと同じインターネット接続サービスを提供しようというものだ。サービス方式にはいくつかあり、現在利用されているのはADSLというもの。今後のサービス拡大が期待されている。

ちなみに、新宿新南口前にある、東京めたりっく通信の「METALLIC BAR」にて、ADSLのテストをさせていただいた。使用した機材は、スプリッター、ADSLモデム(米WESTELL製FLEXCAP)という構成で、PC側はWindows 2000をインストールしたノートPCを使用した。

640Kbpsの回線で、4MB程度のMP3データをダウンロードしたところ、なんと65~75KB/secあたりを変動しながらも平均して70KB/secが出ていた。これはほぼ640KbpsというADSLの性能をフルに発揮している。もちろん、ADSLの特性上すべての家庭でこのスピードが保証されるわけではないが、条件がいいとさすがに速いという印象だ(ちなみにISDNはこの10分の1)。もちろん、BEFSR41がスピード的な障害要因にはならないことも明白だ。

(阿部信行)



背面図。ポートが6個見える。右からUplinkポート(ハブを追加接続する)、1~4番ポート(PCなどを接続)、WANポート(ケーブルテレビ/ADSLモデムをつなぐ)